

第15号  
平成20年2月22日  
発行  
「市民活動情報紙  
なると」編集委員会

# 市民活動 情報紙なると

鳴門市ボランティア  
連絡協議会  
☎685-7170  
鳴門市市民活動  
支援センター  
☎684-0655

## 第24回徳島県ボランティア・NPO研究大会 第6回鳴門市市民活動交流研修会が開催されました



基調講演



全体会

第24回徳島県ボランティア・NPO研究大会と第6回鳴門市市民活動交流研修会（NPO法人徳島県ボランティア協議会などの主催）が2月10日に鳴門地域地場産業振興センターで開催されました。

午前、開会式と徳島県保健福祉部障害福祉課 濱口真人課長補佐の「障害者自立支援法について」と題した基調講演がありました。

濱口課長補佐は講演で「障害者がこれまで受けてきたサービス提供は、障害種別ごとに縦割りで整備が進められてきたことから「格差」が生じ、事業体系がわかりにくい状況となっていました。さらに、各自治体のサービス提供体制と整備状況が異なり、全国共通のサービス利用ルールもないため地域間格差も生まれています。そこでこうした制度上の問題を解決し、障害者が地域で安心して暮らせる社会を実現するために、平成17年10月31日に「障害者自立支援法」が成立し、翌年の平成18年4月1日から施行され、障害の種類に関係なく共通の仕組みによって共通のサービスが利用できるようになりました。

障害者自立支援法では、サービス利用を希望する人は申請をして審査、判定を受けます。判定は全国共通のルールに従って行い、障害程度区分（支援の必要度を判定する尺度）や希望、状況をもとにサービスの支給量が決められ通知され、サービス利用者には「障害福祉サービス受給者証」が交付されます。支給決定が決まると相談支援事業者のサポートを受けて、サービス利用計画書を作成し、計画が決定したらサービス提供事業者との契約を行います。契約完了後に、契約内容に従ってサービスを受けることができるようになりました。しかし、この制度は、利用者に理解しにくい内容です。それでもっとわかりやすく、利用しやすいようにまだまだ見直す必要があります。

障害者が必要な援助を受け、他人に頼らず自立していけるような、障害者がいるのがあたり前であり、障害が個性であると認められる社会・時代になって欲しいです。」と話されて基調講演は終了しました。

- 午後からは、第1分科会 『障害者・高齢者のハッピーライフ』  
第2分科会 『防災と環境保護の明日』  
第3分科会 『市民活動と地域の活性化』

をテーマに3分科会に分かれて開かれ、各団体の代表者から活動状況・実績などの事例発表がありました。各分科会とも多くの参加者があり、熱のこもった意見交換が行われました。

## 献身100周年を迎えて

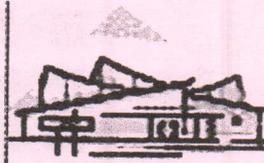
(賀川先生がスラム入りより)

NPO 法人 賀川豊彦記念・鳴門友愛会  
運営委員 田淵 豊

2007年2月、鳴門教育大に於いて実施されたあの感動的でさえあった、第6回とくしまNPO フォーラム・第5回鳴門市市民活動交流研修会の報告書が届きました。ふり返ってみると、立ち上げから、最後の最後まで、JCIの素晴らしい仲間たちによって支えられ成しとげられたものであり、ここに新たためてJCIの皆さんに心よりお礼申し上げる次第です。

さて、私たちの大麻町には4つのNPOが日常不断に活動していることはご承知の通りです。その1つが、今や全国的にも注目されている「JCI」であり我が「賀川豊彦記念館」です。そして県下で2番目に設立され、8周年目を迎えている、宅老所「コスモスはうす」と「大麻まちづくり」です。

これ等のNPOの活動を、地方分権の流れの中で、住民自治をキーワードに、今後のまちづくりを考えたとき、それらが果たしている役割の大きさに今さらながら頭の下がる思いでいっぱいになります。本来、行政の重要な施策として実施されなければならない、高齢・障害者の対策、そして文化行政を、正にNPOが日常不断に、ボランティア精神に基づき運営・管理をしているのです。



さて、そこで今回は賀川記念館の運営・管理がどうなっているのか少しふれ、誌友の皆さんのご理解をいただきたいと思ひます。

賀川記念館が建設され6年目になります。全ての建設費は、市民はもちろん、全国から寄せられた1億2千万円の募金によって建設され、市へ寄付されました。

現在の運営は、指定管理者制度が導入され、当鳴門友愛会が当たっております。市の予算は、1人分のアルバイト予算2百万円少々で、年間予算4・5百万円の運営、管理費(人件費含)は、入館料と友愛会会員の会費によって運営しているのが現状です。個人博物館(鳥居記念館)の永続可能な経営はどうあるべきか、行政との協働を考える私たちにとって当記念館は問題提起をしています。

さて、記念館では待望の入館者感想記録集を発行しましたが、それを読むと、『鳴門に賀川豊彦記念館あり』との感想が寄せられ、全国にいや世界にまでも情報発信していることがよく分かります。

来年は賀川先生がスラムに入って100年になることから、献身100周年を記念する取り組みが始まっています。当記念館も全国に発信できるような事業にとりくみたいと満を持す今日この頃です。

## 全国ろうあ者体育大会の協力を

福祉と環境をすすめる会 岡 徹郎

鳴門市の中心である鳴門郵便局前の停留所近くに花畑があります。私たちボランティアは、草をとったり、色々な花を植えたり、水をやったりしております。また、撫養町弁財天北側公園でも花の手入れをしています。

私が6年前に、鳴門市の姉妹都市リューネブルク市を視察したときに、町はとても綺麗でゴミもなく、色々な美しい花壇があちこち道路端にあり、本当に感動的でした。

鳴門市も美しくしたいなと思ひ、私は駅前南側公園と弁財天北側公園の2公園で、時々、空き缶やゴミを拾い、掃除しています。

さて、話は変わりますが、2010年秋頃、徳島県で全国ろうあ者体育大会が開催されることが決定しました。11種目の競技大会が徳島県内の会場で行われます。もちろん大会資金が必要になります。そこで、私の提案です。市民の方で自転車の故障でお困りなら、大道踏切近くの駐輪場までご持参いただければ修理をします。修理代は、皆様方の気持ちで結構です。そして、これを大会協力金の一部にしたいと思ひます。どうか、大会成功に御協力をお願いします



花畑

### 手話落語家デビュー

岡さんが手話落語家として4月に大阪でデビューされます。

芸名は、鳴門亭笑徹(なるといしろうてつ)さんです。

## 地域の安全を守る

齊田地区自治振興会  
会長 村澤 久豊

齊田地区は撫養小学校、撫養幼稚園、中央保育所、正興寺保育所、鳴門高等学校、成徳高等学校と学校が一地区に集中して文教地区になっています。

朝の登校時間ともなりますと大勢の児童、生徒が歩いて、自転車で、又保護者の車での送りつけで付近の道路はごった返しになります。小学校では校長先生を始め先生方が外に出て児童たちを見守っています。又、授業時間中でも校長先生は巡回して不審な人が居ないかパトロールされています。

鳴門高校の先生方も門の付近で生徒の登校を見えています。又幼稚園の下校時間ともなりますと保護者の迎えの車が幼稚園前の道路わきに並びます。

子供の安全を考えると、自治振興会としても出来るだけの安全のお手伝いをするため、昨年5月から地域コミュニティー活動として、地域安全を守る会を作りました。車には地域安全のステッカーを貼り、ウインドブレーカーも作り、会員がそれぞれに子供の安全を見守ることにしました。

子供たちは、知らない人から声をかけられたら話をしないと教えられているそうなので、私たちステッカーを貼った車や住民が見ていると、何かにつけ安全が少しでも守られるのではないかと考えています。それで毎月の定例会には皆さんにパトロールをお願いしています。



東南海地震がいつ起きるかも知れないといわれています。安全は地域の防災も含まれます。それで昨年齊田地区自主防災会を立ち上げました。齊田の津波被害はマップに含まれていませんが、地震のときは先ず自分の安全の確保、家族の安全の確認、火元の確認、それから近隣の様子を知り、避難はどうか、勉強をしていきます。

昨年10月自治振興会の役員たちは、北島町にある県の防災研究所に行き講習を受け、地震の体験をしました。震度7がどれだけ凄いかびっくりしました。

昭和21年の南海地震を経験し、阪神大震災の震度5弱で、前の家の屋根瓦が全て落ちた揺れは経験しましたが、震度7がどれだけ凄いかを体験しました。普段から身の回りの危険な個所を知る必要があると話合っています。

2月の定例会では里浦地区の自主防災会、松下会長をお迎えして家具の転倒防止や防災訓練等の講習をすることにしています。天災人災を出来るだけ軽くなるよう会員と話合っています。

### 行事のお知らせ

#### 《出番を待ちながら》

【とき】 3月24日(月)  
18:30 開演  
【劇団】 木山事務所  
【ところ】 鳴門市文化会館



#### 《天国までの百マイル》

【とき】 5月18日(日)  
18:30 開演  
【劇団】 劇団文化座  
【ところ】 鳴門市文化会館  
【問合せ先】 鳴門市民劇場  
☎684-1777

#### 《源氏物語講座》

～源氏転落の仕掛け人はだれ?～

鳴門市読書振興協議会

【とき】 4月16日(水)  
13:30～15:30  
【ところ】 鳴門市立図書館 2階  
【内容】 原文に親しもう  
『梅枝の巻』 『藤裏葉の巻』  
『若菜の巻 上(前半)』  
【講師】 橋本 妙子 さん  
【対象】 一般 定員50名程度  
【年会費】 200円 要申込み(当日も可)  
【申込先】 鳴門市立図書館  
☎685-0255  
後援 NPO 法人「ふくろうの森」

## 助成金の紹介



### ◎「LUSH チャリティバンク」助成

#### ◇助成対象

- ・自然環境や動物保護の分野、人の支援分野（社会的弱者、子供、障害や病気のある人など）の活動をしているグループ・個人
- ・比較的小規模で、直接的な活動（草の根活動）をしているグループ・個人
- ・法人格、個人を問わないが、日本国内に活動拠点を持つこと
- ・すでに活動実績を持つこと

#### ◇助成内容

活動やプロジェクトにかかる必要な費用は全て助成対象となります

#### ◇助成金額

1団体上限100万円

#### ◇締め切り日

平成20年9月28日まで2ヶ月に1回〆切（何度でも申請ができます）

#### ◇問合せ先

（株）ラッシュジャパン チャリティポット係  
☎03-5468-8384

### ◎「2008年度ひらめき工房アジレント」助成

#### ◇助成対象

自然保護などの環境問題を含む理科・科学・算数・数学の分野で子供たち（幼稚園～中学生）の夢や想像力を育む現在実施中、もしくは検討中の、ユニークなプロジェクトで継続性のある活動

#### ◇応募資格

- ・非営利団体であること（法人格等の種類や有無に制限なし）
- ・日本国内で活動する組織であること

#### ◇助成対象期間

平成20年4月1日から平成21年3月31日

#### ◇助成金額

最高50万円

#### ◇申込締切日

平成20年3月12日（当日消印有効）

#### ◇問合せ先

アジレント・テクノロジー（株）  
企画・広報部 ☎042-660-8554

### ◎平成20年度

「子育て家庭支援団体に対する助成活動」

#### ◇助成対象となる団体

就学前の子どもの保護者等（妊婦等を含む）に対する支援活動を行う民間非営利のボランティアグループ・団体  
NPO 法人等

#### ◇助成対象となる活動

日本国内における就学前の子どもの保護者等（妊婦等を含む）に対する支援活動（従来からの継続活動でも新規活動でもよい）

#### ★対象となる活動の例

- ・学習会活動（育児勉強会の開催等）
- ・相談活動（子育て相談・カウンセリング等）
- ・情報提供活動（子育て情報誌の発行等）
- ・交流活動（親子の集い・情報交換の場の提供等）
- ・支援者養成活動・保育（保護者等の疾病時の一時預かり等）など

#### ◇助成対象期間

平成20年8月～平成21年3月に実施する活動

#### ◇助成金額

1団体等当り（上限額）25万円  
助成金総額 1400万円以内（予定）

#### ◇申込受付期間

平成20年2月12日～3月21日  
（当日消印有効）

#### ◇問合せ先

社団法人 生命保険協会 広報部内  
子育て家庭支援活動事務局  
☎03-3286-2643